

# 分析結果報告書

平成22年7月1日

株式会社 シタラ興産 様

No. D-1052801

特定計量証明事業登録番号 第特13号

株式会社 熊谷環境分析センター

埼玉県熊谷市高柳1番地7

TEL 048(532)1655

環境計量士 田中 邦



ご依頼頂いた排ガス中のダイオキシン類濃度等の測定分析結果を下記のとおり報告します。

施設名 : ガス化燃焼炉ZB-300ツイン

試料の種類 : 排ガス

測定年月日及び時刻 : 平成22年5月28日 11:36 ~ 15:36

分析項目		分析結果		分析方法	
ダイオキシン類濃度	PCDDs及びPCDFs (0°C, 101.32kPa)	実測値	68	ng/m <sup>3</sup>	JIS K 0311
		O <sub>2</sub> 12%換算値	91	ng/m <sup>3</sup>	
		毒性当量	1.080924	ng-TEQ/m <sup>3</sup>	
	DL-PCB (0°C, 101.32kPa)	実測値	3.3	ng/m <sup>3</sup>	
		O <sub>2</sub> 12%換算値	4.5	ng/m <sup>3</sup>	
		毒性当量	0.08667501	ng-TEQ/m <sup>3</sup>	
トータル毒性当量(0°C, 101.32kPa)		1.2	ng-TEQ/m <sup>3</sup>		
一酸化炭素濃度 (連続測定平均値)	実測値	2.2	ppm	JIS K 0098	
	O <sub>2</sub> 12%換算値	2.8	ppm		
酸素濃度 (連続測定平均値)		14.2	%	JIS K 0301	
排ガス温度 (連続測定平均値)		126	°C	JIS Z 8808	
排ガス量(乾き) (0°C, 101.3 kPa)		5540	m <sup>3</sup> /h	JIS Z 8808	

## 毒性当量について

- ・毒性当量の算出にはWHO/IPCS(2006)を使用
- ・実測値が定量下限未満の異性体は"0"として毒性当量を算出

## 測定施設の概要

設置年月日:平成6年3月4日  
焼却能力:333.3 kg/h  
処理量:1.4 m<sup>3</sup>/h  
焼却物:廃プラスチック・木屑・紙屑  
繊維屑・動植物性残渣・廃油  
医療廃棄物  
稼働時間:8:30~20:30 12 h/day

## 「ダイオキシン類対策特別措置法」による排出規制

火床面積(廃棄物の焼却施設に2以上の廃棄物焼却炉が設置されている場合にあっては、それらの火床面積の合計)が0.5m<sup>2</sup>以上、又は焼却能力(廃棄物の焼却施設に2以上の廃棄物焼却炉が設置されている場合にあっては、それらの焼却能力の合計)が50kg/h~2000kg/hの規模の焼却施設には以下の基準が適用されます。

当施設の排出基準値:10 ng-TEQ/m<sup>3</sup>

備考:ダイオキシン類:ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン(PCDDs)、ポリ塩化ジベンゾフラン(PCDFs)及びダイオキシン様PCB(DL-PCB)の総称